

学校教育目標	人間尊重の精神を基調とし、次のような教育目標を定める。 ◎かしこく ○やさしく ○げんきよく	重点目標 ☆ 基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力等を育み、主体的に学ぼうとする態度を身に付ける。
--------	---	---

学校教育目標	中期的目標	短期的目標	具体的な方策	評価指標	達成状況		分析	改善策	学校関係者評価
					中間評価	最終評価			
かしこく	確かな学力の育成	①基礎的・基本的な知識・技能を習得する。 ②思考力・判断力・表現力を育成する。 ③主体的に学習に取り組む態度を育成する。	①漢字の基礎的・基本的な内容の定着を図る。	○学級の9割以上の児童が学年別漢字配当表に示された漢字の習熟を8割以上にする。	B	B	新出漢字のテストは良くても、作文などはひらがなが多くなる。生きて使える知識になっていない。	ステップタイムを活用して定着を図るほか、漢字の成り立ちや具体的な用法なども示して関心を高める。	先生方が研究する姿が見られ、感謝している。授業に関する角度から工夫されている。学習に対する七小の先生方の努力に期待している。子供たちが楽しく学習ができて環境にいる、ということがうれしい。読み聞かせも、とてもよい。 わくわく発表会などでは、低学年はみんなに伝わるようにはきはきとしているが、高学年になると相手を考えて言葉遣いを選び、自分の考えも一緒に述べるができるようになってきている。 自分から学ぶとは楽しいもの。失敗しても自分から立ち直る力を小学校のうちに付けてほしい。
			①既習事項を踏まえ授業のねらいを明確にし基礎基本の定着を図る。	○反復学習で習熟を高め、学級の9割以上の児童が算数の知識・理解の定着を9割以上にする。	B	B	文科省や都の調査などから本校の苦手部分(図形や数学的な思考力)が明確になった。	自ら興味をもって問題解決を図りたいという意欲を喚起するような指導法を工夫する。	
			②言語活動の充実を図り、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育成する。	○課題を把握して自ら考え、考えたことをノートに書いたり、話し合ったり、発表することができる児童を9割以上にする。	B	B	様々な教科で、考えをノートに書く活動を取り入れているが、能力の差は依然として大きい。	考えるためのヒントや、説明するための方法(図や表なども含める)の指導の工夫をする。	
			③主体的に学習し、自分の考えを進んで発表する児童を育成する。	○主体的に学んだことや調べたことをまとめ、自分の考えを進んで発表できる児童を低学年9割、中学年8割、高学年7割以上にする。	B	B	自分の考えをしっかりとってノートに記録できるが、進んで発表する児童は固定している。	指導法の向上だけでなく、間違ふことやそれを指摘されることを恐れずに発表できる学級の基盤をしっかりと構築する。	
やさしく	豊かな心の育成	①児童の人権感覚の高揚を図る。 ②自然や人とのふれあい、思いやりを育む活動を進める。	①他者を尊重する態度を育成する。	○進んであいさつをする児童を9割以上にする。 ○「みんなと仲よくする」という児童を9割以上にする。	B	B	見守り会の方々に毎日声掛けをいただいたり、朝会では体育館を退出時に管理職や専科が挨拶をする場を意識的に設けたりして、効果を上げている。	見守り会の方々をはじめとして感謝の気持ちを込めた挨拶をすることと同時に、教職員全体であいさつについて継続して指導を続けていく。	わくわく発表会に限らず、低学年と高学年のやりとり・かかわりがとても温かい。上の学年の子供が下の子供の面倒をよく見ていて、困っている1年生にすぐに手を差し伸べることができる。たてわり活動の効果である。 また、中学年くらいは女子の力が大きい。高学年はそれぞれの役割をきちんとこなしている。ただし、高学年の一部は慣れからか少しだらけているところもあった。 また、地域の方が率先して雪かきなどをしてくださっていた。ただし、あいさつについてしっかりと声が出せる児童は半分程度。あいさつは人と人のかかわりの基本。これをもっと学校は指導していきたい。
			②人とかかわりや思いやりの心、協力する態度や感謝の気持ちを育成する。	○たてわり班で仲よく楽しく遊ぶ児童を9割以上にする。 ○やさしい言葉で話ができる児童を9割以上にする。	B	A	縦割り班活動での、低学年に対する6年生のやさしい言葉がけが伝統であり、保護者からも好評である。	高学年の下学年に対する良い面を、横の関係にも示していけるように、「やさしい言葉」を具体的に示していく。	
	安全教育の推進	③生命尊重の道徳授業の充実を図るとともに、家庭との連携を進める。 ④防災意識や危険回避の行動様式を定着させる。	③年間指導計画のもと、計画的に道徳の授業に取り組む、保護者に公開する。	○全学級が年間指導計画に則った授業を実施するとともに、公開授業日及び道徳授業地区公開講座開催日には、保護者・地域に公開する。	A	A	年間指導計画に従って授業公開を保護者・地域に向けて実施しただけでなく、「勝手に公開」と銘打って公開する先生方が増えた。	来年度から教科化される道徳や外国語、さらに中学年の外国語活動については、職員で共通理解を図った上で、保護者にも伝えていく。	
			④避難訓練や安全指導等を計画的に実施するとともに、地域訪問等により通学路及び学区周辺周辺の危険箇所を確認する。	○避難訓練を年間11回(各月1回)実施し、防災意識や危険回避の行動様式を全児童(100%)に定着させる。 ○4月中に全児童(100%)の通学路及び学区周辺周辺の危険箇所を確認する。	A	A	年間指導計画に従い、避難訓練・安全指導、全職員による通学路点検を実施した。児童の安全意識向上への取り組みも向上した。	危険の予測からそれに伴う行動について、児童自ら選択・実行できるように様々な状況下で訓練の幅を広げて行く。見守り会の方々の見守り活動は今後もよりしくお願いいたします。	
げんきよく	健やかな体の育成	①児童の体力の向上を目指した活動を進める。 ②基本的な生活習慣の確立及び食育を推進する。	①毎日の外遊びを励行するとともに、元気アップタイム、短縄月間を活用する。	○進んで体を動かし、運動することが好きな児童を9割以上にする。	B	B	なわとび月間などが設定された時には、ほとんどの児童が外に出て積極的に体を動かしていた。	体力テストの結果を踏まえて、筋力や持久力を高める運動に意識的に取り入れたり、体を動かすことの気持ちよさを感じさせたりして、進んで運動する児童の育成を図る。	「元気よく」はあいさつにもつながる。元気よく声を出して挨拶もしてほしい。
			②給食指導を通して食育を推進するとともに家庭と連携し、早寝・早起き・朝ご飯を励行する。	○好き嫌いをしないで、食べようとする児童を8割以上にする。 ○時間や提出期限を守れる児童を9割以上にする。	B	B	相変わらず、個人差が大きく、一定の割合で期限の守れない児童がいる。	全体への意識付け、個への対応、保護者との連携などを通して改善に努める。	

